

多機関協働事業者向け研修

2022年1月14日（金） 13:00～16:10

資料URL : <https://jmar-form.jp/jusosem2dat.html>

重層的支援体制整備事業 人材養成研修

多機関協働事業者向けライブ研修

■ 表示名の変更をお願いいたします

【グループ番号・自治体名・参加者名（名字のみ）】としてください。（例：A ●●市 能率）

*1端末で**複数名参加される自治体は代表者のお名前**を記載下さい。

- 名前の変更方法：
1. Zoomミーティングに参加
 2. 画面下部にある“参加者”のタブをクリック
 3. 自分の名前にカーソルを合わせる
 4. 「詳細」ボタンが表示されるのでクリック
 5. 「名前の変更」が表示されるのでクリック
 6. 名前を変更

※名称変更がされていない方には、事務局より個別にチャットを送りますので、ご確認ください。

■ ミュート設定にてお待ちください

資料URL：<https://jmar-form.jp/jusosem2dat.html>

厚生労働省挨拶

タイムスケジュール

時間	内容	詳細
13:00～13:05 (5分)	開会挨拶・ オリエンテーション	
13:05～13:25 (20分)	前期研修の振り返り	
13:25～13:30 (5分)	講師紹介	
13:30～13:40 (10分)	事例背景と設定	
13:40～14:20 (40分)	映像視聴	模擬重層的支援会議映像の視聴
14:20～14:35 (15分)	ディスカッション	模擬重層的支援会議映像を視聴して気づいたことを共有
14:35～14:45 (10分)	休憩	
14:45～15:30 (45分)	パネルディスカッション (会議の振り返り)	模擬重層的支援会議の解説
15:30～15:50 (20分)	ディスカッション	活かしたいことや取り組みたいことを共有
15:50～16:05 (15分)	総括	
16:05～16:10 (5分)	閉会挨拶・事務連絡	

本日の研修の目的とポイント

本日の研修の目的

- 複雑化・複合化した課題を抱えるケースに対して多機関が協働して支援にあたる意義や効果及びその手法について学ぶ

模擬重層的支援会議・パネルディスカッションのポイント

- 複雑化・複合化した課題を抱えるケースのアセスメント・プランニング・フィードバック・モニタリングなどの支援の流れについて、高齢者、障害者、子ども、生活困窮のそれぞれの相談機関の見方等を含めて学ぶ

※それぞれの専門性の違いを持ち寄る意義や、支援方針を立てる際の留意点について触れる

演習のポイント

- 模擬重層的支援会議や、パネルディスカッション（会議の振り返り）をもとに、気付いたことや学んだことのアウトプットを行う
- 多機関協働事業者の視点や役割について再認識し、明日から始める一歩を検討する

研修の流れ

【オンデマンド】事前視聴

【ライブ】事前説明

- 病院→地域包括支援センター→多機関協働事業者→行政担当者と打ち合わせの場面まで
- ポイント：多機関協働事業者の視点や動き、行政担当者との協働など

【映像】模擬重層的支援会議

- 行政・多機関協働事業者が、重層的支援会議に支援関係機関を招集。事例の世帯について、情報共有するとともに、各支援関係機関がどういったアプローチをしていくか支援の方向性を決める
- ポイント：支援関係機関の専門分野の違いによる視点の「差異」、役割分担、支援の目線合わせなど

【ライブ】パネルディスカッション

- 模擬重層的支援会議について振り返るとともに、事例への支援の展開に応じたアセスメント・プランニング・フィードバック・モニタリングなどのポイントについて、理解を深める
- ポイント：発言の意図、支援関係機関の専門性の理解、チーム形成の視点など

アイスブレイク：前期研修のふりかえり

3つの自己紹介をして、お互いを知りましょう（1人3分以内）

- 1、自己紹介（〇〇県〇〇市の〇〇事業所の〇〇です）
※ご所属の自治体の紹介も織り込んでみましょう。

◆ 前期研修終了時にご案内した事後課題について

- 2、事後課題でどのようなアクションを行いましたか。
 - ・自治体で抱えている実事例を用いて支援体制の課題を整理した
 - ・関係者間で実践へ活かせるポイントを整理したなど、実践したことを共有してください。
- 3、2について、大変だった点や工夫された点、新しい発見等感じたことを共有してください。

本日の講師紹介



中核地域生活支援センターがじゅまる センター長
市川市生活サポートセンター そら 主任相談支援員
朝比奈 ミカ氏



六親会 プレーゲ船橋居宅介護支援事業所
主任介護支援専門員／社会福祉士 助川 未枝保氏



半田市障がい者相談支援センター センター長 加藤 恵氏



NPO法人アンジュ・ママン 施設長 小川 由美氏



社会福祉法人東御市社会福祉協議会 相談支援係 係長
生活就労支援センターまいさぽ東御 主任相談支援員
佐藤 もも子氏



坂井市健康福祉部 福祉総務課 社会福祉士 斉藤 正晃氏

模擬重層的支援会議が行われるA市における相談支援体制

今回、模擬重層的支援会議が行われるA市においては、下記のような体制により相談支援にあたっている。

<組織等の体制>

・各分野の包括的相談支援事業とは別に、相談支援事業の一形態として、**幅広く相談を受け止める窓口（総合相談窓口）を整備し、当該窓口を整備する機関の中に、多機関協働の機能を持たせている**

・総合相談窓口は、市内の社会福祉法人が受託している

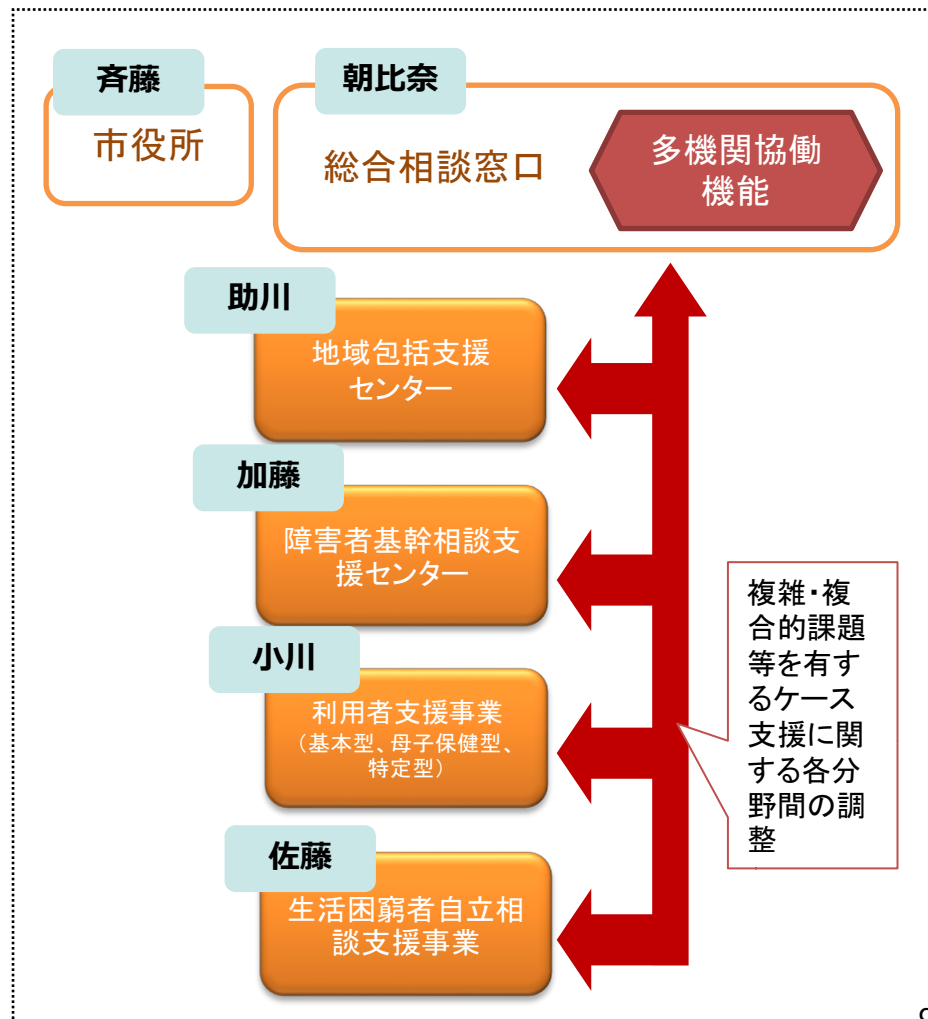
<多機関協働を整備する機関の機能>

・多機関協働機能としては、**総合相談窓口で受けた相談や、包括的支援事業者が受けた相談のうち、課題が複雑化・複合化した事例に関して、連携して相談支援を行ったり、関係機関間の役割の整理や支援の方向性のまとめなどの調整機能**を果たす

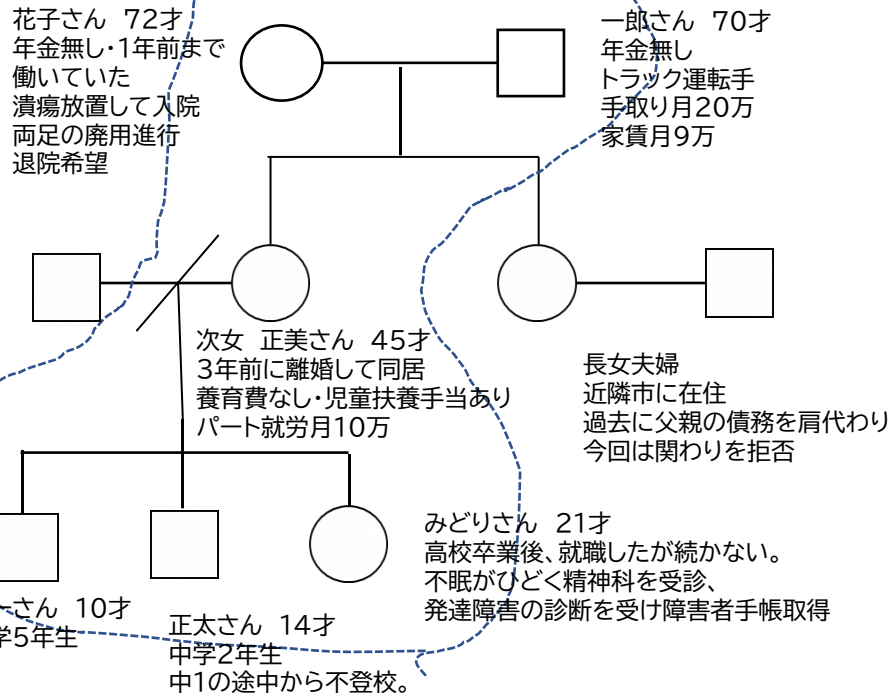
<重層的支援会議について>

・主催は多機関協働事業者

・市は、事務局の機能を担っており、支援関係機関の招集等を円滑に行うために必要な協力を行っている



病院から「世帯全体への支援が必要」とつながった事例



- A病院の相談員から地域包括支援センターに連絡。救急搬送された花子さんだが、足の潰瘍の治療を拒否して退院を希望している。夫を呼んで本人を説得するよう伝えたが、お金の問題もあるのかもしれない。在宅支援を念頭に、要介護認定の手続きを進めてほしい。
- 地域包括から、次女に連絡してみた。次女は子どもたちの問題も抱えているようで、「もう自分たちだけではどうしたらよいかわからない」と泣きながら話していた。
- 地域包括は次女の実情を得て「総合相談窓口」に連絡した。世帯としての支援が必要と思われる。

*これは架空の事例です。

地域包括支援センター→多機関協働事業者(総合相談窓口)→行政担当者

- 多機関事業者が複雑かつ複合ケースで、全体的な支援が必要と判断。行政担当者との間で会議招集の必要性等も含め協議
- 現在入院している花子さんの治療や退院のことを早急に考える必要があるため、地域包括支援センターの所管に相談した方がいい
- 一方で、正美さんには、親の治療や介護のことでキーパーソンとしての役割を求めたいところであるが、その子どもたちの現状を踏まえると正美さん母子へのケアも考えておかないといけないのではないか。
- 現時点で、はっきり何ができるのかはわからないが、早い段階からつながっておいて、その後の対応につなげていく必要も念頭において、困窮や子ども、教育等へも声をかけておく必要があるのでは。
- また、長女との関係性についても情報収集の必要ありそう。

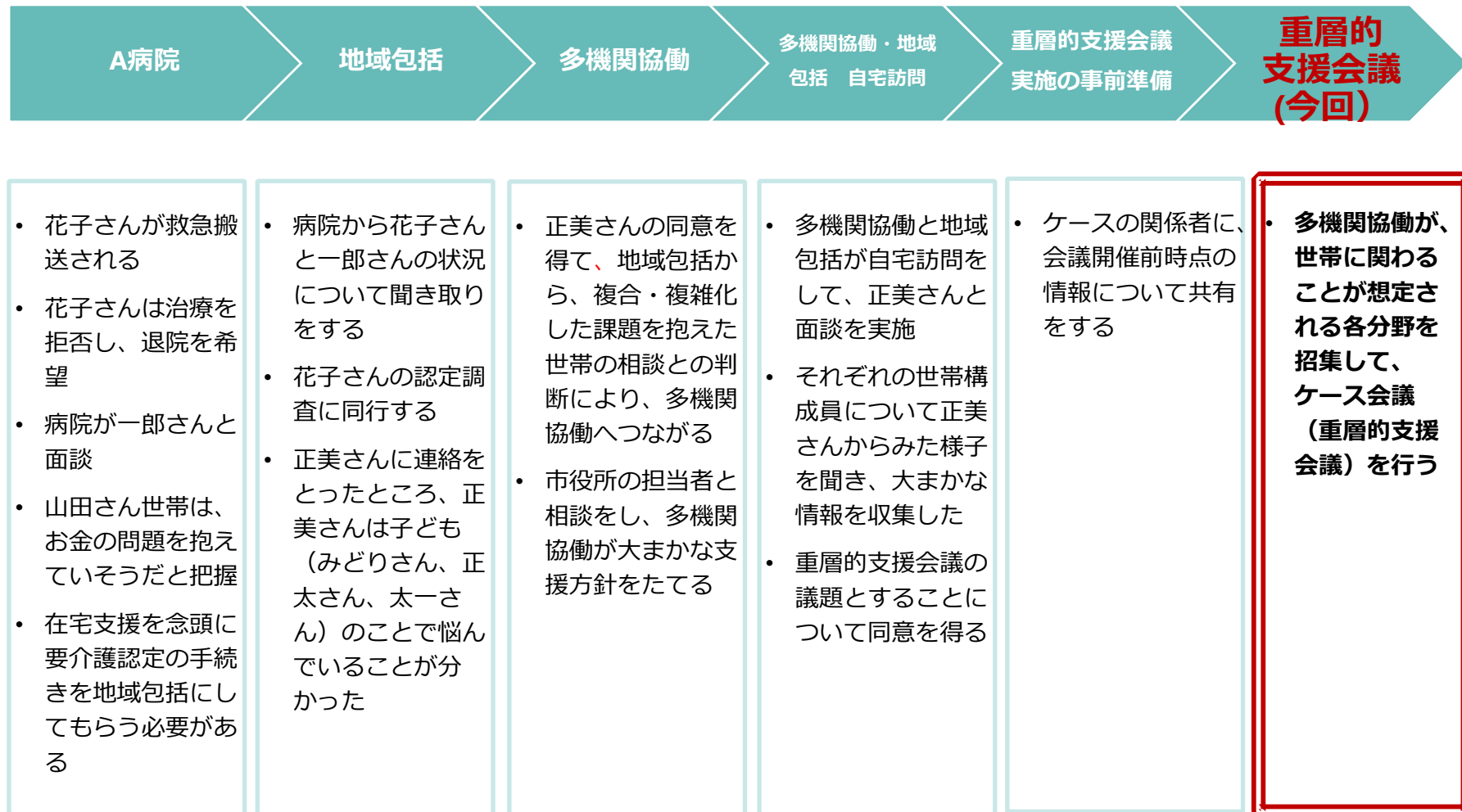
→ 各分野を招集してケース会議を行いましょう。

多機関事業者は、会議前にまずは地域包括と一緒に正美さんから聞き取りをしておくことで一致。

要介護認定の件で病院から連絡があると思われるので、地域包括が必要な情報収集をしておく。

事例の大まかな経緯

それぞれのタイミングで、どこの機関が何をしたのか



2021年12月1日13時～

場所：○○

- **今回の重層的支援会議の目的**

現状の共有

支援関係機関の見立てや意見を出し合い、支援の方向性について目線合わせを行う

支援関係機関の役割分担を行う

- **出席者の自己紹介**

多機関協働事業（朝比奈）、A市役所担当（斉藤）、地域包括支援センター（助川）、

障害者基幹相談支援センター（加藤）、利用者支援事業（小川）、生活困窮者自立相談支援事業（佐藤）

- **現状の共有**

多機関協働事業者と地域包括支援センターにおいて、初回訪問した際に把握した情報を共有

- **検討・意見・提案**

世帯の状況に関して追加で把握すべき項目の確認

各支援関係機関の見立てや、考えられる支援内容の共有

- **方針の決定**

各支援関係機関が、誰に、どのようなタイミングで、どうアプローチしていくかの支援方針を決定

病院からの情報(地域包括が聞き取り)

- この患者は、昨年も足の状態が悪化して救急搬送で運ばれてきたことがある。退院後、通院を指示したが、2～3回通ったきりでその後は来ていない。今回はさらに状態が悪化しているので、主治医が皮膚移植を勧めている。
- コロナの影響で、入院患者の面会を制限している。この家族とも電話のみ。病院と家族とのやり取りはスムーズだが、結果、本人の治療拒否は変わらないことから、家族を病院に呼んで一緒に話をする必要性も感じている。
- 本人によれば、借金はもう返したはずと言っているが、詳細は不明。お金の管理は夫(一郎さん)がやっているようで、本人は把握していない。
- 本人は、手術は拒否しているが、リハビリは頑張っている。しかし、だいが廃用が進んでおり、自力歩行は難しいかもしれない。だいが前から歩けなくなっていて、家のなかではキャスター付きの椅子で動き回っていたと聞いている。
- このまま治療を拒否するのであれば、ある程度リハビリを終えたら自宅に戻すしかない。訪問看護で傷の処置を受けられるようにする必要がある。

地域包括が病院での花子さんの認定調査に同行

- 花子さんは話し好きの印象。質問にははきはきと答えるが、話が長くなりがちで、調査員が切り上げる場面もあった。
- 早く退院して自宅に帰りたいと繰り返し訴え。「孫のご飯は私が作らなくちゃいけない」と話す。得意料理をたずねると、笑顔で「揚げ物だねえ」と答えた。
- 地域包括が花子さんに、なぜ手術が嫌なのかと尋ねると、「いままでだって大丈夫なんだから。手術なんてしたら寝たきりになっちゃう。とにかく家に帰りたいんだ」と答える。地域包括が「手術を受けた方が、ご自宅に戻って楽に動けるようになりますよ」と伝えたが、返答は曖昧。「ご家族の手助けが必要になるから、介護する人たちの意見もよく聞いてみてくださいね」と家族の話し合いを促し。

初回訪問による情報(次女の正美さんからの聞き取り)①

- 一郎さん:(70才)

近隣市で工務店を自営していたが、経営難で廃業。借金の保証人を妻(花子さん)の兄弟に頼んでいたことから、信用を失い、花子さん親族から縁を切られた。

現在のアパートは、正美さん母子が離婚して実家に戻るようになった時に、一郎さんが友人に紹介されて入居。家賃は9万円。家計は一郎さんが管理。

高血圧気味。普段は無口だがお酒を飲むと子どもたちに暴言を吐くことがある。妻に強いことを言えず、治療を受けるように説得しきれていないのではないか。年金無し、国保加入。

- 花子さん:(72才)

実家は遠方、裕福な育ちだった。そのせいか、いつもまわりが何とかしてくれると思っている節がある。

若い頃から医者嫌いで、今回は正美さんが異臭から足がひどい状態になっているのに気づき、本人の反対を押し切って救急車を呼んだ。

医師が皮膚移植をすすめても「手術は絶対に嫌」と言って聞かない

初回訪問による情報(次女の正美さんからの聞き取り)②

- 正美さん:(45才)

前夫は仕事が続かない人で、生活費を渡してくれなくなり、離婚した。実家に戻るときに両親とは世帯を別にしている。

現在は週5日10時～16時、スーパーでパートで働いており、月10万の収入。社保は加入していない。児童扶養手当月5万、児童手当2万。月10万を家計に入れるために父に渡している。父とは性格的に合わず、あまり深い話はしていない。姉の方が両親とよく話をしていたが、父の借金を姉の夫が一部肩代わりしてから、姉は「これ以上、実家には関われない」と言っている。

- みどりさん:(21才)

小さい頃から寡黙で友だちができず、正美さんがあちこち相談に連れて行った時に「障害があるかもしれない」と言われたことがあるが、結局そのままになり、普通学級に入学した。

学校の成績は中の下で、県立高校を卒業して事務員として就職したが、上司に厳しくされて会社に行けなくなり退職。その後はバイトをしてはすぐ辞めるを繰り返している。

不眠がひどくなり、自分で精神科を受診。「自閉症スペクトラム」の診断を受け、手帳を取ったばかり。正美さんとの関係は良好。弟たちをかわいがっている。

初回訪問による情報(次女の正美さんからの聞き取り)③

- **正太さん:(14才・中2)**

小さい頃から多動で、正美さんはたびたび学校から呼び出しを受けてきた。愛嬌があり、友だちはたくさんいる。

小5～6年の担任に恵まれて頑張ってきたが、中学に入ってすぐに不登校になった。

学校には行かないが放課後は友だちと遊んでいる。夜まで外で遊びまわり、警察に送られて帰ってきたこともある。

- **太一さん:(10才・小5)**

勉強についていけず、最近では保健室で過ごすことも多い。

友だちは少なく、学校から帰ってくると遊びに出ることも無い。

正美さんは買い物に出るときなど太一さんをいつも連れて行くようにしているが、外では母の正美さんのそばで隠れるようにしている。

視聴しながら行う作業

気づいたことや疑問に感じたこと

模擬重層的支援会議
開催時の様子

ワーク

グループワーク：15分

休憩：10分

視聴しながら行う作業

活かしたいこと、取り入れたい視点や明日からはじめられること

パネルディスカッション

ワーク

グループワーク : 20分

総括：15分

厚生労働省挨拶

事務連絡